

## 2018 年度第 3 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2019 年 2 月 5 日 16:30～17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IR グループリーダー 小池 太郎
説明資料	2018 年度第 3 四半期決算の概要 及び 2018 年度業績予想の概要

### Q&A

#### ■モビリティセグメント

##### Q1. モビリティセグメントの事業動向について説明してほしい。

**A1.** モビリティは各事業とも販売数量は堅調に推移しています。自動車関連では、海外 PP コンパウンドはグローバルで堅調に推移しました。北米の自動車販売は年初からの累計では前年並みですが、当社が注力しているライトトラック等大型車は前年比で伸びており、大きな流れは変わっていません。また、タイ、インドをはじめとするアジアでは自動車販売台数は伸びているほか、中国でも日系自動車の販売が堅調であり、当社 PP コンパウンドの販売は各拠点とも前年同期比で増加しています。ICT 関連では、スマートフォンの減速はあるものの、カメラのデュアル化、トリプル化といったトレンドは変わっておらず、アペルの販売は堅調に推移しています。

##### Q2. モビリティセグメントの 18 年度営業利益見込について、前回発表値から見直した内容について説明してほしい。

**A2.** 販売数量面では大きく見直していません。交易条件については、価格改定は 3Q 期中からの原料価格下落に伴い、計画比では未達となりました。原料価格下落によるプラス影響はあるものの、交易条件トータルの損益影響は前回から大きく変わっていません。この他アーク社の業績見込の修正がプラスに寄与しています。

##### Q3. 海外 PP コンパウンドの交易条件の推移について説明してほしい。

**A3.** 全世界的に 18 年 1Q (4-6 月) 後半からプロピレン、PP の価格は上昇基調にあったものの、3Q (10-12 月) 後半より下落し、4Q (1-3 月) は 18 年 3 月末レベルで推移する見通しです。

#### ■ヘルスケアセグメント

##### Q4. ビジョンケア及び不織布の事業動向について説明してほしい。

**A4.** ビジョンケアについては、メガネレンズモノマーの販売が堅調に推移しました。不織布については、高機能不織布の販売は安定的に推移しているものの、紙おむつの輸出数量の減少が継続しており、当社の汎用不織布は販売数量が減少しました。なお、高機能不織布は新規ラインが 10 月に 2 つ立ち上がっており、今後拡販に努めて参ります。

#### ■フード&パッケージングセグメント

##### Q5. フード&パッケージングセグメントの事業動向について説明してほしい。

**A5.** 農薬については販売が堅調に推移しています。コーティング・機能材、及び包装フィルムは、いずれも販売は堅調に推移しているものの、3Q (10-12 月) 期中からの原料価格下落により、販売価格の改定は計画に対して未達となりました。4Q (1-3 月) 以降は、原料価格の下落により交易条件は改善するものと見込まれます。イクロスについては、スマートフォンの販売不振および DRAM の生産調整等の影響により、3Q (10-12 月) の販売は 2Q (7-9 月) 並みにとどまりました。今後も引き続き生産調整等の影響が継続すると思われるため、動向を注視していきます。

##### Q6. フード&パッケージングセグメントの営業利益について、2Q (7-9 月) から 3Q (10-12 月)、及び 4Q (1-3 月) にかけての動きについて説明してほしい。

**A6.** 2Q から 3Q にかけては、農薬の不需求期入りを主因に減益となっています。3Q から 4Q にかけては、農薬の需要期入り、及び原料価格下落に伴うコーティング・機能材、包装フィルムの交易条件改善による増益を見込んでいます。

**Q7. イクロスの 4Q (1-3 月)の販売は 3Q (10-12 月)と比較してどう見込んでいるか。**

**A7.** 4Q は不需要期ということもあり、販売は減少するものと見込んでいます。

**Q8. 農薬の研究開発費は 4Q (1-3 月)に多く発生すると認識しているが、研究開発費が計画より大きく膨らむ可能性はあるか。**

**A8.** 特段大きな増加の予定はありません。

#### ■基盤素材セグメント

**Q9. 基盤素材セグメントの営業利益について、2Q (7-9 月)から 3Q (10-12 月)、及び 4Q (1-3 月) にかけての動きについて説明してほしい。**

**A9.** 2Q から 3Q にかけては、クラッカー等、主要設備の稼働は引き続き高水準で推移しました。損益影響としては修繕費の期ずれにより約 ▲10 億円、市況軟化等が約 ▲10 億円の減益要因となった一方、大阪工場の定修及び火災影響の減少が約 +40 億円の増益要因となり、全体では 17 億円の増益となりました。3Q から 4Q にかけては、設備は引き続き高稼働を維持するものの、原料価格急落に伴う在庫評価損を ▲100 億円強見込んでいます。一部は販売価格フォーミュラの期ずれ等で相殺されますが、原料下落が急激であったため全ては相殺しきれず、減益を見込んでいます。

**Q10. 基盤素材セグメントにおいて 4Q (1-3 月)で在庫評価損を販売価格フォーミュラの期ずれで相殺しきれず減益となっているが、今後原料価格が落ち着けば来期以降の改善要因となるか。**

**A10.** 販売等の状況にもよりますが、一定の改善は見込まれます。

**Q11. 基盤素材の第 3 四半期決算の営業利益において、前年同期比で固定費差が大きく出た要因は何か。**

**A11.** 大阪工場の火災影響に加え、その他一部製品のトラブルや、シンガポールのフェノールの定修差等の影響によるものです。

**Q12. フェノール、アセトンの市況動向について説明してほしい。フェノールとアセトン合計で採算は確保できているか。**

**A12.** フェノールの需要は堅調が継続しています。競合のトラブル等に伴い一時高騰した市況は、再稼働に伴い沈静化したものの、市況は一定の水準で推移しました。今後、需要は春節により一時的に落ち込むものの、ポリカーボネート向け BPA 需要の回復、及びフェノール法カプロラクタムの立ち上がりに伴い、春節明けから増加すると見込まれます。供給面では新規増設等の予定はなく、一部メーカーの定修入りもあり、市況は堅調に推移するものと見込んでいます。アセトンにつきましては、需要は概ね堅調も、フェノールの高稼働に伴うアセトンの供給過多により市況は低迷しました。今後、一部メーカーの定修等に伴い、春節明け頃からの市況上昇を見込んでいます。なお、フェノール、アセトン合計では一定の採算は確保できています。

#### ■全社

**Q13. 年初計画では 17 年度から 18 年度にかけての営業利益の固定費差は ▲55 億円としていたが、第 3 四半期決算時点で ▲92 億円と大きく出ている。主な要因は何か。**

**A13.** 大阪工場の火災や一部製品のトラブル等の影響が主な要因であり、それらを除くと概ね年初計画並みの水準となる見込みです。

**Q14. 第 3 四半期決算における大阪工場の火災影響はどの程度だったか。**

**A14.** 販売の機会損失及びコスト増加等、▲30 億円強が営業利益の減益要因となりました。また特別損失として ▲63 億円を計上しています。

**Q15. 持分法投資損益の4Q（1-3月）見通しが3Q（10-12月）と比較して悪化する要因は何か。**

**A15.** TDIの市況下落が主な要因です。

**Q16. 18年度業績見通しについて、各段階利益の内、経常利益までは前回発表値から下方修正した一方、当期純利益を据え置いた理由は何か。**

**A16.** SMPC、TPRC等の持分の一部譲渡、及びその他資産の売却等により、特別利益が前回見通しより拡大したことが主な要因です。

以 上